

領収書

2019年03月11日

西崎翔 様

平素は格別のお引き立てを賜り厚くお礼申し上げます。
下記の金額正に領収いたしました。
何卒よろしくお願い申し上げます。

株式会社プリントパック

〒617-0003
京都府向日市森本町野田3-1
TEL 0120-977-920
FAX 075-935-6890



お支払条件 クレジットカード

納品場所 ご指定場所

御請求金額 9,255円 (税込)

納品期日 4営業日

ご注文番号	内 容	数量	単 価	金 額
PAC19008388	品名：西崎つばさレポート17号 A4 / 両面4色 / コート90 / 3,000部 / 加工1：巻三つ折り 加工2：	1	9,255	9,255
合 計				9,255

特記事項

※クレジットカード決済の場合には、金銭または有価証券の受領事実がありませんので、表題が「領収書」となっても、
印紙税法基本通達第17号の1文書には該当しません。
※5万円を超えていても収入印紙は貼付されません。

西崎つばさレポート

2019年3月15日発行

編集部：〒152-0002 目黒区目黒本町 6-15-3
TEL 090-1796-5099 FAX 03-4330-1880 MAIL office@n283.com



目黒川に、世界平均10倍の マイクロプラスチック!?

私も含め、花粉症の人間にとっては過酷な季節が訪れています。戦後の植林政策で激増したスギによる花粉症を人災と捉えるかは議論のあるところですが、明らかに人間の営みによって生み出され、地球環境に影響を与えつつある問題の一つが海洋プラスチックであり、今号のテーマです。

■ 海洋プラスチック問題に世界が注目

死んだウミガメやクジラなどの体内から大量のプラスチックが出てきた話に象徴されるように、この問題は世界的な関心事となっており、2018年6月のG7サミットでは、「海洋プラスチック憲章」が取りまとめられ、使い捨てプラスチックからの脱却が目指されています。

中でも、破碎され5ミリ以下の大きさになった「マイクロプラスチック」は、回収がほぼ不可能である一方、流出量が増加・蓄積し、現在では世界のあらゆる海に浮遊しているとされ、魚や海洋生物、さらには人体からも検出されています。健康への影響は未知数ですが、有害物質を吸着しやすい性質であることは疑いなく、看過できません。

なお、残念ながら日本と米国は憲章に署名していませんが、国内では同じ6月に「海岸漂着物処理推進法」が改正され、事業者にはマイクロプラスチックの使用抑制の努力義務が課され、政府には施策を検討することが求められています。

■ 日本は「ホットスポット」

2015年の環境省の調査では、日本周辺海域の

マイクロプラスチック濃度は世界の海の27倍であったと報告されており、いわゆるホットスポットとなっています。そして、これらが近隣諸国から排出されたものばかりかということ、そういう訳でもないようです。

国内の河川を調査した研究グループによると、対象となった地点の86%でマイクロプラスチックが発見され、その濃度は、市街地率など人間活動の活発さと明らかな相関関係が認められています。

また、別の民間調査では、目黒川(!)の河口付近のマイクロプラスチック濃度が、世界平均の10倍以上であったという結果も報告されています。この数値には、目黒区における人間活動も影響を及ぼしていることは容易に想像できます。

■ 議論を始めませんか？

この民間調査では、最も多いマイクロプラスチックは、人工芝から生じたものでした。また、屋外で使われる洗濯用品や園芸用品が劣化して、最後は海洋に流出するというケースも指摘されるなど、この問題は単純にリサイクルを推進するだけでは解決できません。

確かに、レジ袋なども含めたプラ製品の利便性は、我々の生活にとってかけがえのないものであり、一足飛びに脱プラスチックへ向かうのは困難です。しかしながら、将来の世代に引き継ぐ地球環境に思いを馳せつつ、今できることを議論することは、現代に生きる者の責任ではないでしょうか。

皆さまのご意見をお寄せ下さい！ office@n283.com

西崎つばさ
プロフィール

35歳、2児の父。円融寺幼稚園、向原小、九中、都立青山高校、東京外語大英語科卒業。目黒雅叙園に勤務後、手塚よしお秘書。その後、蓮舂秘書。2015年、目黒区議選で初当選。超党派組織「東京若手議員の会」副代表。

解説 マイクロプラスチック問題

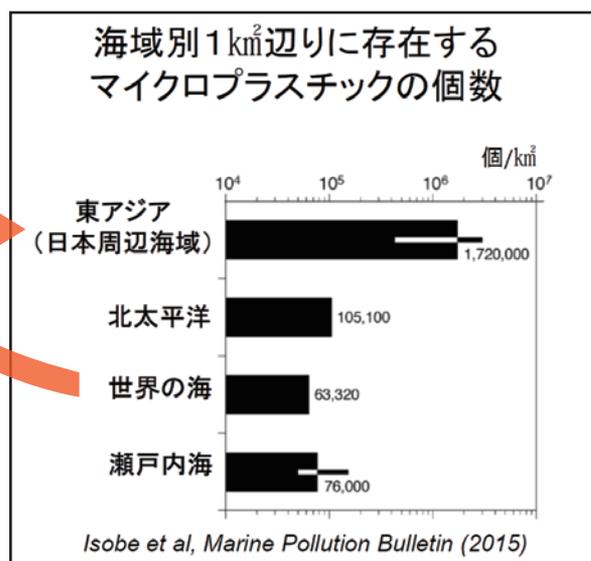
プラスチックは微生物による分解がほぼされないため、細かく破碎されると、相当の長期間、海に残留し続けます。2050年には、海中のプラスチック量が魚の量を上回るとの試算がダボス会議で示されているほどです。

欧州を中心に、プラスチックはSDGs（持続可能な開発目標）にそぐわないとされ、使用の削減や代替素材が模索されていますが、日本の動きは早いとは言えない状況です。



写真：Florida Sea Grant
(<https://www.flickr.com/photos/flseagrant/35987683092/>)

判明 身近な海や川にも存在



27倍!

環境省 海洋ごみシンポジウム 2016 資料から抜粋

日本近海の高いマイクロプラスチック濃度は、国内の河川のごみによる影響もあると考えられ、とても他人事とは言えません。

環境省は今年度、国としては初めて河川の調査を委託実施することにしており、結果が注目されます。

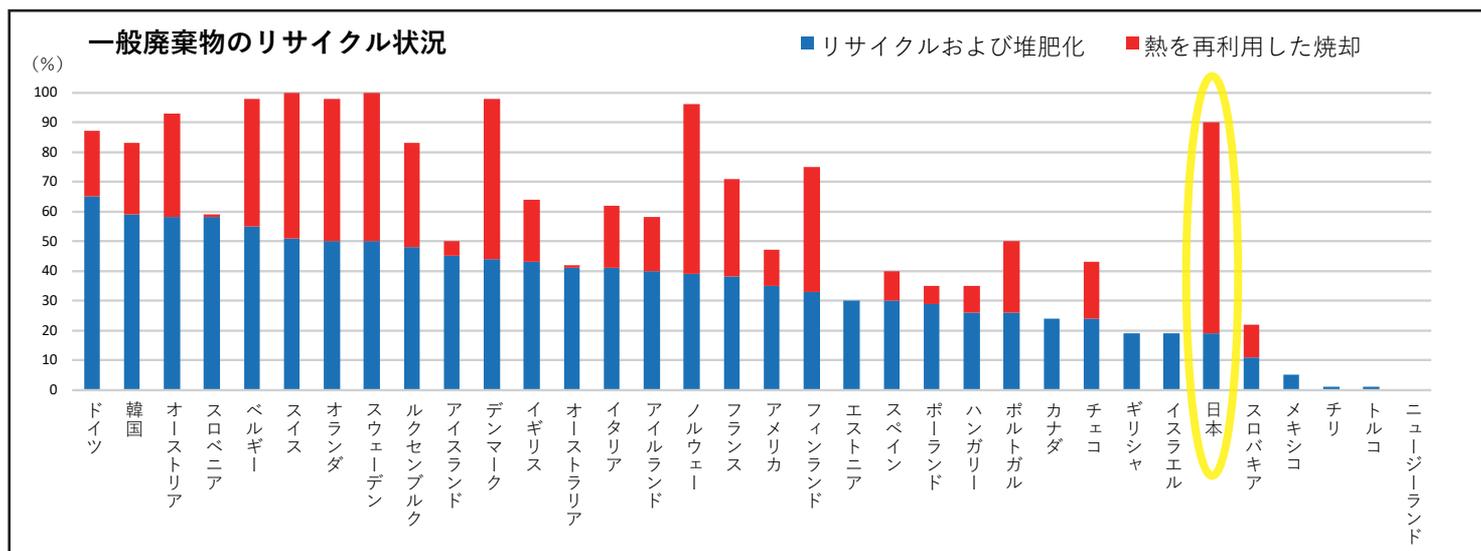
河川/港湾名	調査地点	個数 (個/m ³)
目黒川	河口付近	1.20
多摩川	丸子橋	0.77
隅田川	汐入公園付近	1.66
東京湾	多摩川河口付近	0.66
	風の塔付近	0.57

株式会社 / 一般社団法人ピリカ「国内外の河川 / 港湾におけるマイクロプラスチック等の浮遊状況調査」(2018)より抜粋

誤解 日本はリサイクル先進国？

日本はリサイクルが進んでいると思いがちですが、2015年時点のOECD加盟34カ国中27位(19%)と低い水準にとどまっています。これは、日本での比率が極端に高いサーマルリサイクル(熱を再利用した

焼却)が、世界ではリサイクルと見なされていないことに由来します。SDGsに示される循環型の社会を目指すためには、こうした現実を直視し、戦略を練り直す必要があります。



Environment at a Glance 2015 (OECD Indicators) を基に作成